

西柴防災ニュース

西柴団地自治会防災部

横浜市金沢区西柴四丁目1-11

横浜市土砂災害ハザードマップ

大雨から身を守るために

横浜市の地質や地形等から大規模な土石流が発生する可能性は低いものの、毎年、台風や集中豪雨によりがけ崩れが発生しています。

災害から命を守るためには、住民の皆さんも災害に関する一定の基礎知識が必要です。「自分の家だけは災害に遭わない」という意識を変え、様々な情報から危険を感じ取り、主体的に避難行動等をとるようにしましょう。なお、土砂災害の指定緊急避難場所は、西柴中学校になります。【注】

【注】西柴小学校は、地震・洪水・高潮の緊急避難場所に指定されています。

◆ 土砂災害ハザードマップとは？

土砂災害ハザードマップは、横浜市が梅雨期や台風の集中豪雨により、がけ崩れが発生した場合に被害を受ける恐れのある区域や避難場所の位置を地図に示し、大雨に対する備えなどをまとめた

ものです。

ハザードマップを活用し、いざという時の行動、避難場所や避難方法などを日頃からご家族や地域の皆さんと話し合っておきましょう。

◆ 土砂災害警戒区域と特別警戒区域

● 土砂災害警戒区域

下記指定要件を充たし、土砂災害の恐れがある区域(通称:イエローゾーン)。

- ・傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
- ・急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域
- ・急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍(50mを超える場合は50m)以内の区域

● 土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域のうち、建築物に損害が生じ、住民に著しい気概が生じる恐れがある区域(通称:レッドゾーン)。

* 土砂災害警戒区域等は、土砂災害防止法に基づき、神奈川県が指定をしています。

【図表1】がけ崩れ



【注】ハザードマップ等の防災地図や、「防災よこはま」等の防災パンフレット等は、横浜市のホームページから見るすることができます。

土砂災害ハザードマップを活用しましょう！

台風や集中豪雨などによるがけ崩れから身を守るためには、土砂災害ハザードマップ等を活用して住民の皆さん一人ひとりが防災意識を高め、情報収集し、日頃から備えを行うことがとても重要です。

▲自宅を確認しましょう

- ・土砂災害ハザードマップで「自宅の位置」と「危険な場所」を確認し、避難経路を考えましょう。
*「神奈川県土砂災害情報ポータル」:
<http://dosyasaigai.pref.kanagawa.jp/website/kanagawa/gis/index.html> より詳細な地図を確認することができます。

▲避難のサインと避難行動

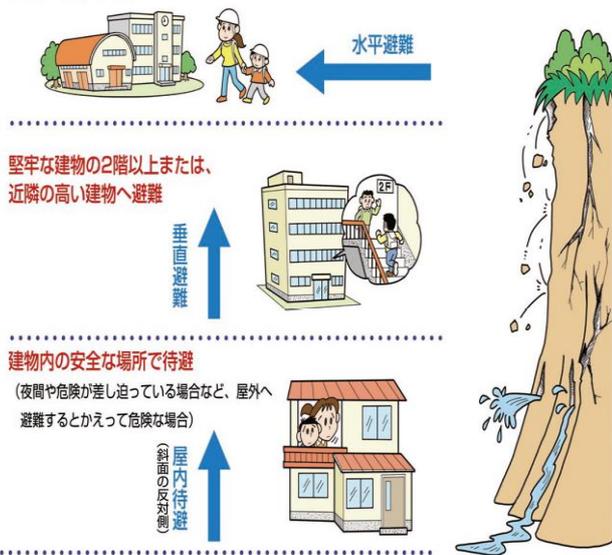
- ・土砂災害の前兆現象を知り、ご自宅に応じた避難行動について考えましょう。

【図表2】避難のサイン(情報は早めに！！)



【図表3】避難行動(早めに行動！！)

安全な場所へ避難(避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域外の親戚の家など)



▲情報収集について

- ・横浜市のホームページに避難勧告などの情報

が表示されます。

(<https://www.city.yokohama.lg.jp/>)

- ・横浜市防災情報Eメールの配信サービス
下記のアドレスにメールを送信すると案内メールが届きます。案内メールの手順にしたがい登録してください。

entry-yokohama@bousai-mail.jp

気象注意報・警報が発表された場合などに、メールが配信されます。

▲即時避難勧告対象区域

横浜市では、崖崩れが発生した場合に、人家に著しい被害を及ぼす可能性がある崖地を予め抽出し、その周辺地域に対して、「土砂災害警戒情報」の発表とともに「避難勧告」を発令することとし、この区域を「即時避難勧告対象区域」と呼んでいます。当自治会地域内では、「西柴二丁目の一部」が対象区域になっています。避難勧告が出されていない地域が安全ということではありません。大雨や台風の際には、防災情報に注意して、自らの判断で早めに避難行動をとるようにしましょう。

▲日頃の備え

- ・本紙第31号等掲載の「非常時の持ち出し品リスト」等を参考に、避難するときに持ち出すものを日頃から準備しておきましょう。
- ・いざというときに行動がとれるように、ご自宅に応じた避難行動などを確認しておくことが重要です。避難を要する災害が発生したとき、その災害自体の情報や避難情報等注意すべき情報の入手方法、危険な箇所を避けて指定避難場所へたどり着ける安全な経路等について、ご家族の皆さんと話し合いのうえその結論を模造紙などに記録して、冷蔵庫に張り付けておくなどして、情報を共有するとよいでしょう。

【出典】:横浜市土砂災害ハザードマップ

～家庭での備蓄対策～ ローリングストックについて

災害が起こると食料の確保が最優先されます。備蓄の必要性を感じている方も、実際に食料を備蓄しておくことはなかなか難しいものです。

保存食を備蓄しておくことも、もちろん大切なことではありますが、日常の中に食料備蓄を取り込むという考え方もあります。普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法を「ローリングストック」と言います。

ローリングストックのポイントは、日常生活で消費しながら備蓄することです。食料等を一定量に保ちながら、消費と購入を繰り返すことで、備蓄品の鮮度を保ち、いざという時にも日常生活に近い食生活を送ることができるはずですよ。

◆ローリングストックの二つのポイント

①古いものから使うこと

備蓄する食料が古くなってしまわないようは、必ず一番古いものから使うようにしましょう。

②使った分は必ず補充すること

ローリングストックでは、備蓄品としてストックしているものはいつ食べても構いません。

ただし、消費した量を必ず買い足すようにしましょう。



◆ローリングストックの一工夫

ローリングストックで日常の食材を多めに準備しておいても、災害時はガスや電気、水道が止まり、食材を調理できないことが想定されます。そんな時役に立つのが「カセットコンロ」です。

過去の災害で被災された方の多くが、避難生活の際に温かいものが食べたかったと語っています。

◆ローリングストックの応用

ローリングストックは、食料だけでなく、日常使いできる生活用品にも応用することができます。

日常的に使用する保存食、飲料水、ウエットタオル、カセットボンベ、乾電池、使い捨てカイロなどは、



常に一定量、家庭に置いておくようにすると、突然の災害にも対応しやすいでしょう。

ローリングストックで備蓄する食料と合わせて備えたいカセットコンロとガスボンベも、日常で使いながら、常にガスボンベは一定量を確保しておきましょう。

【出典】:

- ・日本気象協会 「【トクする！防災】備蓄の心得 ローリングストックについて」
- ・防災首都圏ネット「家庭での備蓄対策 ローリングストックとは」



土砂災害警戒情報・大雨警報（土砂災害）の危険度分布

■土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨警報（土砂災害）の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、市町村長の避難勧告や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。避難が必要な警戒レベル4に相当します。土砂災害警戒情報が発表された市町村内で危険度が高まっている詳細な領域は[大雨警報（土砂災害）の危険度分布](#)で確認できます。

■大雨警報（土砂災害）の危険度分布とは

[大雨警報（土砂災害）の危険度分布](#)は、大雨による土砂災害発生の危険度の高まりを、地図上で5段階に色分けして示す情報です。常時10分毎に更新しており、

大雨警報（土砂災害）や土砂災害警戒情報等が発表されたときには、[大雨警報（土砂災害）の危険度分布](#)により、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。

特に「極めて危険」（濃い紫色）が出現した場合、[土砂災害警戒区域等](#)では、過去の重大な土砂災害発生時に匹敵する極めて危険な状況となっており、命に危険が及ぶような土砂災害がすでに発生していてもおかしくありません。このため、避難にかかる時間を考慮して、「[非常に危険](#)」（うす紫色）、「[警戒](#)」（赤色）、「[注意](#)」（黄色）、「[今後の情報等に留意](#)」（無色）の危険度を表示しています。

【出典】：[【図表6】](#)を含め気象庁ホームページ。

【図表6】大雨警報（土砂災害）の危険度分布の利活用

（色）	色が持つ意味	住民等の行動の例*1	内閣府のガイドラインで発令の目安とされる避難情報	相当する警戒レベル*2
（濃い紫）	極めて危険 すでに土砂災害警戒情報の基準に到達	過去の重大な土砂災害発生時に匹敵する 極めて危険 な状況。命に危険が及ぶ土砂災害が すでに発生 していてもおかしくない。 この状況になる前に 土砂災害危険箇所や土砂災害警戒区域の外の少しでも安全な場所への 避難を完了しておく必要がある 。	避難指示（緊急）	4相当
（薄い紫）	非常に危険 2時間先までに土砂災害警戒情報の基準に到達すると予想	命に危険が及ぶ土砂災害がいつ発生してもおかしくない 非常に危険 な状況。 速やかに 土砂災害危険箇所や土砂災害警戒区域の外の少しでも安全な場所への 避難を開始する 。	避難勧告	
（赤色）	警戒（警報級） 2時間先までに警報基準に到達すると予想	避難の準備が整い次第 、土砂災害危険箇所や土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所への 避難を開始 。 高齢者等は速やかに避難を開始する 。	避難準備・高齢者等避難開始	3相当
（黄色）	注意（注意報級） 2時間先までに注意報基準に到達すると予想	ハザードマップ等により避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。特に、危険度分布をこまめに確認する。	—	2相当
（無色）	今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—	—

※1 大雨警報（土砂災害）の危険度分布に関わらず、自治体から避難勧告（警戒レベル4）等が発令された場合には速やかに避難行動をとってください。

※2 警戒レベルについては内閣府ホームページをご覧ください。